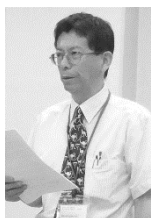


日本ビジネス実務学会 中国四国ブロック会報 第33号

Bulletin of the Japan Society of Applied Business Studies,
Chugoku-Shikoku Bloc, No. 33

発行日: 2020年3月31日
編集責任者: 堀口誠信(徳島文理大学短期大学部)
事務局: 〒770-8514 徳島市山城町西浜坊示 180
URL: <http://jsabs.hs.plala.or.jp/>

ブロックリーダーより 堀口誠信(徳島文理大学短期大学部)



この記事を書いているのが2020年3月初旬ですが、予期せぬ新型コロナウイルス蔓延の影響を受け、小学生は学校にも行けず授業ができない状態になり、働く親たちは感染を避けるため電車などの公共交通機関を避け、テレビ会議に移行して働くスタイルをとる場合が多くなりました。

当学会も3月に予定していた中国での国際学会を早々に中止(延期)し、同じく3月に開催する理事会をテレビ会議で行うことが決定しています。これはZOOMと呼ばれるアプリを使用しますが、使い方によって料金がかかります。学会が出張旅費を援助し、東京などの会場に出張して集まる、といったことから派生する莫大な支出もカットできている状態です。ついこの前まで全国大会でも出欠の連絡を郵便の手段で行い、ブロック研究会のお知らせ・出欠確認も郵送やファックスで行っていたというのが今となっては信じられない状況です。

私事になりますが、10年くらい前までは香港に出張することが何度となくありました。当時、鳥インフルエンザやSARSなど伝染病が流行した時期が度々あり、日本に帰国した際も、体温を瞬時に測定する機械で感染者の入国をブロックするシステムもとられていました。しかし、あまり気にもとめず、マスクもせず平然としていました。現在2020年の状況がどれほど深刻かよくわかります。

このような、加速度的に変化する情勢のなかでも、本ブロック会員は地道に研究・教育に打ち込み、その成果を研究会で発表されています。私たちは個々の事例を積み重ね、それが他の研究者・教育者にとって参考になるよう、汎用的な形にまとめてゆきたいと考えています。

ブロック研究会・実行委員長より 吉田順子(広島女学院大学)



第36回中国四国ブロック研究会は広島女学院大学を会場とし、2019年8月24日(土)、25日(日)の2日間に渡って開催されました。これに先立ち、6月頃から準備を始めましたが、これまで以上に作業の多くをオンラインへ置き換えることで、各地の会員の皆さまと協働しつつ、限られた資源を有効活用できたのではないかと思います。研究会当日は会員のご発表、基調講演に続くワークショップはもちろんのこと、学生プレゼン大会には中四国各地より4大学6組の学生が参加するなど、学びの多い会となりました。ご協力・ご参加くださいました皆さまに心より御礼申し上げます。

日本ビジネス実務学会
第 36 回 中国四国ブロック研究会 プログラム

(2019年8月24日・8月25日 於：広島女学院大学)

【8月24日(土)】	
12:30~	受付
13:00~	開会の挨拶 当番校挨拶 事務連絡 ブロックリーダー 堀口誠信 吉田順子
13:10~	総会
	第14回学生プレゼンテーション大会 (発表:5分) 司会:桐木陽子
14:00~	①学外セミナー等の秘書科行事を通して学んだこと 高松短期大学 秘書科2年 中野葉月、中野穂南 ②G20 消費者政策国際会合の通訳サポーターに選ばれて 徳島文理大学短期大学部 言語コミュニケーション学科1年 宗統海梨 ③多言語観光マップ制作での「学びと感動」 中国学園大学 国際教養学部3年 林優里 ④大学生たちで取組む「笠岡市飛島での地域活性化」 中国学園大学 国際教養学部3年 大畑莉子、馬場雄史 ⑤変わりたい- やらない言い訳よりやりたいと思えるきっかけ - 広島女学院大学 国際教養学部 国際教養学科3年 北倉百々 ⑥私の大学生活 - 成長 - 広島女学院大学 国際教養学部 国際教養学科3年 平石美紗貴
14:50~	学生プレゼンテーション大会の表彰・総括
15:00~	休憩 (30分)
	招待講演
15:30~	修正版グラウンデッドセオリーアプローチを用いた研究入門— 大学生のキャリアレジリエンス獲得プロセスに着目して 広島文教大学 グローバルコミュニケーション学科 小原寿美 (こはらひさみ) 先生
17:00~	事務連絡 吉田順子
18:00~	懇親会 (於: さかな市場 広島総本店)

【8月25日(日)】	
9:10~	受付
	研究発表 (発表20分・質疑応答10分)
9:30~	①「『ロールモデル教育と就職内定先企業とのPBL』の検証 - 新卒者への半構造化インタビュー調査を用いて -」 中国学園大学 佐々木公之
10:00~	②「免許更新講習・小学校英語教育SOS支援!への取り組み」 徳島文理大学短期大学部 堀口誠信
10:30~	休憩 (15分)
10:45~	③「ビジネスパーソンの資質を育む現状と課題 ~高校生に秘書検定の問題を取り組ませて~」 鳴門教育大学大学院 (岡山県立津山商業高等学校) 名和晋也
11:15~	④「新設科目『女性とライフキャリア』への取組と課題」 広島女学院大学 吉田順子
12:00~	閉会の挨拶

招待講演

講師: 小原寿美(こはらひさみ)先生
広島文教大学 グローバルコミュニケーション学科 講師

演題: 「修正版グラウンデッドセオリーアプローチを用いた研究入門
—大学生のキャリアレジリエンス獲得プロセスに着目して—

講師紹介

1. 教育実践に関する講演: 2017年3月、看護と介護の日本語教師のための教師研修(首都大学東京: 秋葉原キャンパスでの開催)にて講師を担当。テーマは「外国人看護・介護人材の資格試験問題の分析と教材作成について」。

2019年3月、日本語プロフィシエンシー研究会春季合宿(於: 柳川かんぼの宿)にて、学会からの依頼により、パネルセッションを行う。テーマは「介護日本語とプロフィシエンシー」。

2. 著書: 『エンカウンターで学級が変わる ショート・エクササイズ集 Part2 』(図書文化社、2001年。)

『介護と看護のため の日本語教育実践—現場の窓から』(ミネルヴァ書房、2019年。)

3. 論文: 「日本語教育能力検定試験合格者の事例研究 —検定試験合格の生涯学習における意義とは—」(『山口国文』第36号。)

「広島文教女子大学における短期インターンシップの実践と検証—仮説検証型インターンシップの試み—」(『高等教育研究』4号。)



講演概要

本年度6月の全国大会発表において学会奨励賞を受賞されている小原先生による、修正版グラウンデッドセオリーアプローチ(M-GTA: Modified Grounded Theory Approach)での、実際の分析方法が説明されました。調査・分析の方法としては従来から統計をとって数量的に実証データを示すことが主流でしたが、これではとらえきれない微妙な質的側面を浮かび上がらせたり、実感として認識しやすい形での説明が可能であったり、ということで最近話題となることが多いM-GTAです。しかし、この用語、よく耳にする割には実際のやり方を詳しく知らない、という研究者も多いのではないのでしょうか。

今回の講演では、単なる解説だけではなく、聴講者が配布されたワークシートを使ってM-GTAのプロセスを実際にやってみる形式も取られました。インタビューで録音された音声データから書き起こした文章を、どのように分析・分解して分析ワークシートを作成してゆくのかについて時間をかけて実感できるようなスタイルとなっており、本学会会員2名が1ペアとなり、おのおの出来上がったワークシートを相手と較べながら、完成した理論的メモがどのくらい一致するか、それともズレが生じるのかを確認できました。たまたま学生プレゼンテーションで参加した学生が数人、学会員と一緒に参加し、同じ作業を行いました。学生の方が作業が速く完成し、分析シートもより正確なものになっていました。先生方は反省しきりでした。

量的研究というより、質的研究に向いている分野には、プロセス的特性を有する研究分野、社会的相互作用(直接的なやりとり)がみられる研究分野、具体的には看護、ソーシャルワーク、教育、心理などヒューマンサービス領域があげられるそうですが、この領域での研究は今後、さらに需要が増えることが見込まれ、M-GTAの手法を知っておくことは今後ますます重要になってゆくものと思われます。

研究発表概要一覧 発表者氏名、所属、タイトル、研究領域(→で表示)、発表概要の順

1. 佐々木公之(中国学園大学)

『『ロールモデル教育と就職内定先企業との PBL』の検証—新卒者への半構造化インタビュー調査を用いて—』 →【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究



1. 概要

2015年4月開学した中国学園大学国際教養学部(以下、本学)では「キャリアデザイン I・II」「トップリーダー経営論」「インターンシップ」など多様なキャリア教育法を用いて学生の社会的・職業的自立に向けて育成を行ってきた。

本研究は、本学初の卒業生で2019年4月よりツアーコンダクター(以下、TC)職に憧れ地元旅行会社(以下、RT社)に就職したN君を被験者に半構造化インタビュー調査を行い、本学での4年間のキャリア教育プログラムについて効果検証を行うものである。とくに、ロールモデル教育として大手企業経営者や起業家などを講師に招いた授業、RT社での半年間における「長期インターンシップ」、ゼミの一環として行ったRT社とPBLについてフォーカスして検証を行う。

2. 先行研究

古野(1999)によると、ロールモデル教育とは、現場で働く先輩を見ることによって、将来の働き方を、リアリティをもって描くことが可能となるものである。Gibson(2004)による新たなロールモデル論によれば、「卓越した人物」から一方向的に影響を受けるのではなく、多数の多様なモデルからアクティブに学ぶプロセスが重要であり、彼は、自分の理想像ない『可能性のある』自分像での認知的構築物という概念を提唱した。平尾(2005)は、大学生対象のキャリア教育の授業でキャリアモデルは有効であったと結論づけた。佐藤(2006)は、キャリアモデルの複数提供だけでは不十分であり、「憧れ」だけでは現実の職業選択でのイメージとのギャップに戸惑うと指摘した。

3. 調査結果

1. 「トップリーダー経営論」受講前まで、TCとして職業への憧れはなかった
2. RT社役員への憧れ以上に、TC職希望が強くなった
3. 人間関係だけでなく端末操作などを理解していたため個人的には「差」を感じている
4. PBLを通じて出会った社外の人脈が就職後にも活かしている
5. 入社前にRT社の就業状況などを理解しており、会社に大きな不満などはない

4. 考察

本学が提供したロールモデル教育は被験者Nの職業選択に大いに影響した。また、就職内定先とPBLを行うことで、入社後、直ぐに大きな有利性を感じ取った。また、長期間のインターンシップを通じて現在も仕事・組織に対して大きな不満はない。今回、被験者は1名だったため、今後、母数を増やし効果検証を図りたい。

2. 堀口誠信(徳島文理大学短期大学部)

「免許更新講習・小学校英語教育 SOS 支援！への取り組み」

→【1】ビジネス実務教育 2)ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発

この10年間、英語部門での教員免許状更新講習を続けているが、昨年2018年8月に「小学校英語教育 SOS 支援！」というタイトルの講座を提供したところ、英語が苦手だから小学校教員になったのに今さら英語を教えなければならないという方々や、中学校・高等学校の英語教員の他、認定こども園の保育教諭・幼稚園教諭の方々から多くの参加を得た。

その理由は、認定こども園では「英語教育を行っている」というキャッチフレーズが園児募集の大きな鍵を握っており、現場のスタッフの英語能力が万全でない場合でも英語教育に踏み切らねばならないという事情があるようだ。今春から小学校外国語活動に関して研究・教育の領域で実績のある外国人教員を十分に確保できたことから、地域のニーズに応えるべく、保育英語の教育を開拓して行きたい構想はあるものの、問題点も多い。例えば、いわゆる一般の英検(実用英語技能検定)では2013年のデータで申込み数が2級で30万人台、3級が60万人台であるのに対し、幼児教育・保育英語検定協会による幼保英検の申込数は2015年のデータで2級が1,000人台、3級が4,000人台と圧倒的に少なく、認知度も世間的にはそう高くはないと言わざるを得ない。したがって、大学としての幼保英検の団体受験導入は構想中であるものの、なかなかすぐには踏み切れない実情がある。

そのような中、英語語法・英語学の専門家としては、世間に流布する英語教育に関する俗説を排除してゆく活動を地道に続けて行くことになる。例えば、「中学校と高等学校で6年間もの間、英語を勉強しているのにさっぱり英会話力が身につかないのは学校英語が悪い」という批判については、英語の専門家以外でも分析ができる。英語圏での乳幼児が1日12時間起きていて、その間英語のインプットがあると仮定すると、母語である英語を習得する4年間に与えられるインプットは12時間×365日×4年=17,520時間であるのに対し、中学校・高等学校の6年間毎日必ず1時間ずつ英語の勉強をしたとしてもその勉強時間は1時間×365日×6年=2,190時間と圧倒的に少なく、6年間も勉強したとはとても言えない、というものだ。その他、ネイティブ講師が英語で保育をする施設でも、ネイティブというだけで保育の資格や経験がない場合、指導力不足で子供同士は日本語ばかり使ってしまうケースもある、といった教育環境に関する現実問題、幼児用英語教材がフルセット定価で80万円などもあるのに「分割払いだと英会話教室の月謝より安い」という誘い文句に乗り、安易に契約してトラブルになるなどの金銭的な問題、さらには、モーツァルトを聞くと賢くなるという「モーツァルト効果」のような形で英語の能力が語られるといった、英語という能力の質に関する問題などに関し、論文検索を使った情報提供の手法を模索する。

3. 名和晋也(岡山県立津山商業高等学校)

「ビジネスパーソンを育む現状と課題—高校生に秘書検定の問題を取り組ませて—」

→【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究



要旨: 商業高校3年生の「課題研究」で、主体的・対話的な授業により、秘書検定問題に2か月間取り組んだ結果、「問題発見の工夫」と「最適解を探索」等に $p < 0.01$ の相関関係が認められることが生徒への質問紙調査により明らかになった。問題発見の工夫により、多様な対応の仕方が考えられるようになり、その中から最適解を考える活動をとおして、ビジネスパーソンとして何が重要かを考えて判断することをくり返すことにより、ビジネスパーソンのコンピテンシーが育成される可能性が示唆された。

1. 問題の所在

商業高校で一般的な各種検定については、進路指導の一環としての有効性や合格率向上方策に関する研究は多数存在するが、検定試験へ向けての指導がビジネスパーソンのコンピテンシー育成につながるかどうかの研究、また、そのような検定試験に関する指導の要件に関する研究は不十分である。

2. 研究の目的

本研究は、高等学校の課題研究で秘書検定問題に主体的・対話的な学びで取り組むことが、ビジネスパーソンのコンピテンシー育成につながる可能性について検討することを研究の目的とした。また、可能である場合、そのような授業の要件についても検討する。

3. 研究の方法

①商業高校の課題研究で、「ビジネスマナー・秘書」の科目を設定し、検定取得を主目的とせず、秘書検定問題に主体的・対話的な学びで取り組む授業を実施(2019年4月～6月実施。対象生徒数3年生30名)

②当該授業受講生を対象とした質問紙調査(「問題理解」「問題発見」「自力思考」「練り合いの場」「話し合う場」「問題発見の工夫」「予想を書く場」「他教科でのAL」「生徒による討論設定」「最適解探索」「顧客志向」「問題発見能力」「トラブル対応」「協働思考」「顧客同僚とのコミュニケーション」「上司とのコミュニケーション」「能力成長」「将来役立つ」の18項目について5件法+自由記述で実施)

③18問について分析・考察

4. 研究結果

自由記述の分析から、秘書検定問題に主体的・対話的な学びで取り組むと、ビジネスパーソンのコンピテンシーが育まれることが示唆された。また、 χ^2 検定の結果、「問題発見の工夫」と「最適解探索」の間に $p < 0.01$ の相関が認められたことから、多様な対応が想定されるような問題発見の工夫が、その中でビジネスパーソンとして最も優れた判断はどれかを考える「最適解の探索」につながるということが、このような授業の要件である可能性が高いことが示唆された。

4. 吉田順子(広島女学院大学)

「新設科目『女性とライフキャリア』への取組と課題」→【1】ビジネス実務教育 1)カリキュラム検討

1. 改組とその背景

広島女学院大学は2018年度改組により、人文学部および人間生活学部の2学部5学科として新たな歩みを始めた。改組にあたりカリキュラム編成の土台としたのが「女性の生涯を豊かにする教育」すなわち「ライフキャリア教育」である。仕事、結婚、育児、介護など全てのライフイベントをキャリアととらえ、稼働労働に携わらない時でも、冷静な判断力や責任ある行動を取り、社会に貢献できる「ぶれない個」を育てることを教育目標としている。

2. ライフキャリア科目の位置づけ

キャリアとは自分と社会との関係性の中で築かれる。そこで本学は、「女性としての自己を見つめ、他者や社会との関係について理解を深めることにより、自らの生涯をデザインする力、自分らしく生きる力を育む」ことを目的に、必修2科目とその他の4科目群（「自己との関係」「他者との関係」「社会との関係」「その他」）から構成されるライフキャリア科目を立ち上げ、専門科目を履修する前の基礎的な知識や幅広い教養を身につけるものとして位置づけた。

3. 必修科目『女性とライフキャリア』

2年生前期に新設された、全学科必修科目『女性とライフキャリア』は、女性のさまざまなライフイベントを想定し、現状における問題点を明らかにしながら、他者との意見交換をとおし自分なりの考えを持てるようにすることを授業目的としている。1学年371名を学科横断で6分割し、各クラス内をさらに6名程度のグループに分けて運営した。各回の授業テーマには、マナープラン・ライフイベント・心と身体・ジェンダーを取り上げ、テーマごとにワークシート作成やポスター発表などを行うことで、考え表現することを重視した。グループワークを活性化する方法として、授業前にテーマについて各自で考えるための仕掛けとして、webを用いた簡単なアンケートを導入することとした。また、本学では新たな試みとして各クラスに3名ずつ、上級生の学生ファシリテーターを配置することとした。

4. 問題点と今後の課題

事前課題として行った「男女の役割」アンケートの結果とディスカッションの様子から、思考や議論が深まらなかったことが課題として挙げられる。質問『『女子アナ』という表現についてどう思いますか』を5件法で尋ねたところ、49.0% (n=196) が「特になんとも思わない」と回答した。その理由（記述）で目立ったものは「なんとも思わない」「当たり前のように使っているから」といったものであり、現状肯定の様子が見て取れた。一方、アンケートでは、40.3%が「好ましい印象」、10.7%が「好ましくない印象」と回答しており理由もさまざまであった。しかし、その数値と理由を提示しながらグループディスカッションを行ったところ少数派は発言を控え大勢に収束し、むしろ意見の多様性が失われる様子が見られた。来期に向け、少数派の意見もディスカッションに活かし、多様な意見交換ができるような改善が急務と考えられる。

学生プレゼンテーション大会 発表内容一覧

1. 高松短期大学・秘書科2年 中野葉月、中野穂南

「学外セミナー等の秘書科行事を通して学んだこと」

私は、毎年8月14日に行われる高松まつり総おどりに参加しました。3日間という短い期間でしたが、1人ひとりがまじめに取り組むことによって、本番では最高のパフォーマンスを披露することができました。また、4月に行われる学外セミナーでは洋食のテーブルマナー研修を行いました。実際に自分でナイフやフォークを並べたり、マナーに関する知識を勉強しました。このような秘書科の行事を通して学んだことを発表したいと思います。

2. 徳島文理大学短期大学部・言語コミュニケーション学科1年 宗統海梨

「G20 消費者政策国際会合の通訳サポーターに選ばれて」

今年9月に徳島県で開催されるG20消費者政策国際会合における、大学代表の通訳サポーター4人の中に選ばれた。役割としては、主に国外からの参加者に心のこもったおもてなしでお迎えをし、県内の農産物や工芸技術の紹介を英語ですることが中心となる。その通訳サポーターの業務概要を学ぶ講座が6月に行われ、他大学の学生とペアになりながら現在、通訳の練習をしている。本番の9月の会合に向けての苦勞と成果を報告したい。

3. 中国学園大学・国際教養学部 3年 林優里

「多言語観光マップ制作での『学びと感動』」

ゼミ活動を通じて、岡山市主催「2018 年度大学生まちづくりチャレンジ事業」に参加し、8 大学 14 団体の中、最優秀賞のグランプリを受賞しました。日本語、英語、中国語といった三ヶ国語の言語と動画などの IT を駆使して 3 種類のマップを制作しました。活動を通じての外国人旅行者の現状や自分たちが知らなかった岡山市の名所など多くの学びがありました。また、この活動を通じて多くの苦勞と喜び、そして感動を得ることができました。

4. 中国学園大学・国際教養学部 3年 大畑莉子、馬場雄史

「大学生たちで取り組む『笠岡市飛島での地域活性化』」

2018 年 6 月より、先輩の祖父母が住む笠岡市飛島で地域活性化の取り組みを行ってきました。学生たちで企画したクリスマス会や、飛島の特産物である「椿の収穫祭」に参加し島民との交流を図ってまいりました。飛島での活動を通じて、学生が出来る島民への地域活性化やこの活動体験から多くの喜びが得られました。

5. 広島女学院大学・国際教養学部・国際教養学科 3年 北倉百々

「変わりたい-やらない言い訳よりやりたいと思えるきっかけ-」

大学入学前、ネガティブだった私は「変わりたい」という気持ちを抱え広島女学院大学の門をくぐった。その後、学生生活を送る中で、多くの新しい出会いが自分を変えるきっかけになっていく。大学の自由な学びを通し、自分が苦手とする「表現」と向き合い、自ら追い込み、学内外問わず挑戦し続けた。大学 3 年生も半分を過ぎた今、学生生活を振り返ることで気づいた自分自身の変化と、思い描くこれからの姿について話していく。

6. 広島女学院大学・国際教養学部・国際教養学科 3年 平石美紗貴

「私の大学生活-成長-」

大学入学時の私は、第一志望の大学に落ち、なりたかった心理カウンセラーになる道も絶たれ、モチベーションは 0 だった。しかし、広島女学院大学 湊晶子学長の「どこで、ではなく、なにを、するかが重要だ」というお話を聞いて、気持ちを切り替えることができた。大学生活をとおして成長したい、と考えるようになった私が、何を目標にし、どのように取り組み、成長してきたかをお話する。

総会概要

1 号議案： 第 38 回全国大会・理事会報告

1) 第 38 回全国大会(東京大会)

担当: 関東東北ブロック

開催日: 2018 年 6 月 1 日(土)、2 日(日)

会場: 目白大学短期大学部

2) 全国大会版会報を含め、印刷物を郵送する形式から、メールにて通達を出し、HP で PDF 版の文書を読んでもらう形式に移行する、いわゆるペーパーレス化を導入。今後、全国大会や総会の出欠もウェブ上で行うような動きが加速する模様。

2 号議案： 2018 年度事業報告・収支決算

1) 2018 年度ブロック活動報告

第 35 回ブロック研究会の開催

開催日: 2018 年 8 月 25 日(土)、26 日(日)

会場: 高松大学・高松短期大学

参加者: 14 名

2) ブロック研究会と総会の開催

開催日・会場は、ブロック研究会と同じ

3) ブロック研究助成の募集

4) 第 13 回学生プレゼンテーション大会の実施

参加者: 6 グループ(8 名)

開催日・会場は、ブロック研究会と同じ

- 5) 運営委員会の開催
第1回 運営委員会 2018年8月26日
第2回 運営委員会 2019年6月より数回にわたり、Eメール審議
- 6) 2018年度・収支決算書
総会に出席した会員がこれを確認し、承認された

3号議案: 2019年度事業計画・予算

- 1) 2019年度ブロック活動計画
第36回ブロック研究会の開催
開催日: 2019年8月24日(土)、25日(日)
会場: 広島女学院大学
- 2) ブロック研究会と総会の開催
開催日・会場は、ブロック研究会と同じ
- 3) ブロック会報・第33号の発行
ブロック会報をウェブ上で会員に知らせることが承認された。
限定された印刷物ではないので、学生の写真を載せる場合は許可を得る必要があることが確認された。
- 4) ブロック研究助成の募集
共同研究者3名以上、10月が申し込み締め切りとなる
- 5) 第14回学生プレゼンテーション大会の実施
開催日・会場は、ブロック研究会と同じ
- 6) 運営委員会開催予定
第1回 2019年8月25日

4号議案: ブロック運営委員について(2019年度メンバーは次の通り)

リーダー: 堀口誠信(徳島文理大学短期大学部)
サブリーダー: 関由佳利(高松短期大学)
運営委員: 吉田順子(広島女学院大学)
運営委員: 加渡いづみ(四国大学短期大学部)
運営委員: 佐々木公之(中国学園大学)
運営委員: 佐藤麻衣(高松短期大学)

5号議案: 学生プレゼンテーション参加学生への交通費補助について
2019年8月の学生プレゼンテーション大会から、発表1件につき1名分の交通費を補助することが認められた。(運営委員による6月から7月のメール審議で今回の案を作成していた。)

6号議案: 次回ブロック研究会の開催校・日程について
四国大学での開催案が示され、これが了承された。日程・ゲストスピーカーは今後決定する。

7号議案: 次回全国大会の開催校・日程について
日時: 2020年6月13日(土)、14日(日)
会場: 北海商科大学

その他

- 1) ブロック会報をウェブ上で会員に知らせることが承認された。今後のブロック研究会の案内と出欠連絡もウェブ上で行うことが認められた。これは2019年度のGoogleフォームで実施したものを参考とする。これらによって経費を削ることができることが説明された。
- 2) ブロック会報・第31号、32号の早急な発行(ウェブ上でのPDF掲載)を確認。
- 3) 学生プレゼンの実施の仕方について: 2018年度までは、学生のプレゼンに対して先生方の感想を述べるだけの形式だったが、2019年度は質疑応答を試みた。「現在の形の学生プレゼンのみで交通費を補助するのはいかがか。学生間の意見交換会や交流の場を設けるなど何か実施したほうがよいのではないか」という総会での意見もあり、2020年度からは、学生プレゼン終了後、控室にて30分間くらいの交流の場を設けてはどうかという案が出た。